

1. はじめに

本校は「自律」「個性」「協調」のもと、いわき地区のキャリア指導推進校として、人文・国際、自然科学、生活福祉、スポーツ健康、芸術・表現、情報の6つの系列を持ついわき市内唯一の総合学科高等学校である。選択科目が約100講座あり、将来の進路希望や興味関心に応じて自ら科目選択をする。2・3年次生は、自分で時間割を作成するため、一人ひとり時間割が異なる。また、特別非常勤講師や高大連携による外部講師による授業も多く開設している。

更に、キャリア教育や探究活動を通して、主体的に行動する力、多様な他者と協働できる力や高いコミュニケーション力を育むことにより、地域を支え、社会に貢献できる人材を育成するとともに、コミュニケーション力・表現力を高める学びと地域や大学等との連携による学びを実践することにより、生徒の多様な個性が共生し、一人ひとりが成長に向かって挑戦する学校を目指している。

今年度、福島県立好間高等学校と統合し、新生いわき総合高等学校として誕生した。統合に向け、教員定数や施設・設備の問題等、課題がたくさんある中、講座の持ち方や開設講座数の維持をはじめ、教員一人当たりの授業時間数の教科によるばらつきが生じないよう調整が必要であった。

何より総合学科としての魅力の維持と、生徒の多様な科目選択への対応ができる講座数の確保のバランスをどう保つかが課題としてあげられた。

今回は、教務部として、また、音楽科教員としての、総合学科における実践的な取組を紹介する。

2. 教務部として

①総合学科の魅力である、多様な選択講座の確保について

新生いわき総合高校誕生を機に、生徒主体の学びを目指し、学校の在り方の変革を推進し、学校の魅力化を図ることを考えた。教育課程委員会やワークショップ等を何度も開催し、本校の在り方について、教員同士で対話を繰り返し、まとめあげた。そして、生徒のこれからの学びの充実に向け、進路に応じた10コースの専門的な学びを設定し、3年間を通じた「キャリア教育」と「探究活動」を進めるカリキュラムの作成を進めた。

極めよ！君の“やりたい！”を



2025(令和7)年度いわき総合高等学校

②学校評価アンケートより

学校評価アンケートからは、総合学科としての特色ある本校に入学して良かったと評価する生徒や保護者が大変多いことがわかる。一方で、2年次以降の選択科目が自由に選べず、系列・コースにより、選択科目が固定されていて残念とい

視点	評価項目	回答者	評価点				グラフ
			A	B	C	D	
総合学科	1. あなたは、本校に入学して良かったと思っている。	生徒	201	257	39	8	
		保護者	182	126	9	2	
		教員	14	43	1	0	
		全体	397	426	49	10	
		全体	397	426	49	10	
総合学科	2. 本校は、総合学科として特色ある教育を行っている。	生徒	324	173	7	1	
		保護者	206	117	2	0	
		教員	35	23	0	0	
		全体	565	313	9	1	
		全体	565	313	9	1	

う意見もある。それらは、コースの特色と進路指導を結び付けての科目選択であるものと考えているが、シラバス等の活用、授業見学、そして科目「産業と社会」の授業において、自己を見つめ将来を考えることを学びながら科目選択にも活かせるよう、今後は総合学科推進部との連携等、学校全体で更に改善を図ってきたい。

2025(令和7)年度いわき総合高等学校

③ 高校入試について

少子化に伴い、いわき地区全域で定員割れを起こした学校が多くみられた。学校の魅力が志願者数に比例するかは分からないが、本校の特色や校風について理解した上で、本校で学びたいという意欲を持つ志願者の確保を図りたい。本校の魅力ある取組を広報するため、発信する情報や機会を増やし、地域から愛される学校づくりを更に進める必要がある。

④ 今後の取組について

学校全体での情報共有を図るために、速やかな報告・連絡・相談を心掛けるとともに、また、各部主任や各年次主任との連携強化を図り、お互いに協力し合える体制を整えることが必要である。

更に教員の研究や研修の機会を充実させることが教務主任としての大きな役割である。自身の資質向上だけでなく、本校における全教職員の資質向上へ向けて、研修の機会設定や、仕事の効率的な分担を心掛けていきたい。

3. 芸術（音楽）科として

音楽コース	2年次	△論理国語	英語コミュニケーションⅡ	音楽理論	ソルフェージュ	日本伝統音楽研究	数学A	自由選択科目	公共	物理基礎生物基礎	体育	保健	総合的な探究の時間	LHR
	3年次		英語コミュニケーションⅢ	音楽理論演習	ソルフェージュ演習	音楽史	自由選択科目	地学基礎	体育	総合的な探究の時間	LHR			
美術コース	2年次	△論理国語	英語コミュニケーションⅡ	素描	構成	数学A	自由選択科目	公共	物理基礎生物基礎	体育	保健	総合的な探究の時間	LHR	
	3年次		英語コミュニケーションⅢ	絵画	構成演習	自由選択科目	地学基礎	体育	総合的な探究の時間	LHR				
演劇コース	2年次	△論理国語	英語コミュニケーションⅡ	舞踊Ⅰ	演技・演出	数学A	自由選択科目	公共	物理基礎生物基礎	体育	保健	総合的な探究の時間	LHR	
	3年次		英語コミュニケーションⅢ	舞踊Ⅱ	演劇総合演習	自由選択科目	地学基礎	体育	総合的な探究の時間	LHR				

① 開講科目について

本校では6つの音楽コース専門科目を開講している。2年次の「音楽理論」「ソルフェージュ」「日本伝統音楽研究」、3年次の「音楽理論演習」「ソルフェージュ演習」「音楽史」である。音楽コースの受講生徒数は10人程度で、主に音楽系の進学を志望する生徒である。この他、自由選択科目として音楽の科目を選択する生徒もいる。自由選択科目には、2年次の「器楽基礎」「声楽基礎」「保育ピアノ」3年次の「器楽」「声楽」「保育音楽」がある。

② 進路について

例年、本校の芸術表現系列・音楽コースから音楽系の進学を考える生徒がいる。主な進学先は、私立

音楽大学の器楽や声楽のコースであり、教員免許の取得を目指す生徒も多い。生徒たちは、自らの専門楽器に加え、本校で開講されている音楽科目を十分に修得する一方で、放課後等の時間を使い、器楽の練習はもちろん、理論等の課題学習にも取り組んでいる。複数の希望者がいることで、お互いを高め合っている。また、音楽系部活動にも所属することで、部活動の指揮を執り、知識以外の経験も通し、学びに活かしている。また、音楽大学以外にも、保育士養成のための短期大学や音響・舞台関係の専門学校、トリマーや美容師関係の専門学校等、様々な進路希望の生徒が選択している。

③学校設定科目「日本伝統音楽研究」について

本校の特色あるコースの開講科目をさらに魅力的なものとするため、今年度実践した科目の一つに「日本伝統音楽研究」がある。

本校の生徒は、音楽活動に対して興味・関心が高く、表現活動においても意欲的に取り組んでいる。しかし日本の伝統音楽の分野については、小中学校音楽教育での経験が少なく、また、必修科目である「音楽Ⅰ」の授業における伝統音楽の時間数確保は難しい。そのため、例年、2年次「日本伝統音楽」の選択者が4～5名程度である。この特色ある科目の魅力を伝えるために、授業内容を見直した。まずは、日本の伝統楽器に触れる機会を多くした。テキストのページをどんどん進めながら、基礎・基本奏法を学ぶこととした。そして、指導講師の演奏を鑑賞することで日本伝統楽器の音色のすばらしさに気づかせた。また、生徒から、演奏したい曲をリクエストさせながら教材楽曲を選ぶことで、さらに生徒たちの取組への意欲が向上した。はじめは、映画音楽や流行の曲を挙げていた生徒たちであったが、伝統楽器の「間」や「余韻」など、様々な奏法による音の魅力を感じていくとともに日本の古典曲への関心も増していった。八橋検校作曲の「六段の調べ」では、演奏家の鑑賞も意欲的に進め、生徒自ら古典曲の良さを話し合い、積極的に演奏に生かすよう取り組む姿も見られた。また、授業での教材としては



(六段の調べ授業より)

弦を引っ張ったり押したり揺らしたりすることで様々な表現をできることはおもしろかった。

どうしたら音のつなぎや揺れがきれいに表現できるか考えながらやりました。

日本の文化、日本の音とは？！

「箏」が主となることが多いが、「三味線」も取り入れてみた。音合わせの仕方やバチの持ち方等、定着するには時間もかかったが、何度も繰り返し練習することで三味線本来の音色を作り上げるよう生徒たち自身が聴き合い、話し合い、高め合う姿が見られた。まとめとして、「箏」と「三味線」による合奏に取り組み、1年間の授業の成果は素晴らしいものとなった。

④校内文化発表会での披露

本校では、校内文化発表会を年に一度開催している。各教科・各系列の授業や、委員会活動・部活動・同好会・家庭クラブ等での活動の成果発表の機会としている。色とりどりのステージ発表及び個性あふれる展示発表となっている。このような表現活動の充実した行事をとおして、系列・コースや特色ある本校の魅力を、校内だけではなく、保護者にも見ていただくことを目的としている。上記に示した「日本伝統音楽研究」の講座生徒も素晴らしい演奏を披露することで、この講座の魅力を他の生徒にも伝えることができた。

No.	時間	発表団体名	発表内容
1	9:30 ~ 9:45	情報同好会	プロジェクト・マッピング
	9:45 ~ 9:55	休 憩	
2	9:55 ~ 10:10	系列音楽「日本伝統音楽研究」	箏演奏
3	10:10 ~ 10:35	箏曲部	箏演奏
	10:35 ~ 10:40	片付け・準備	
4	10:40 ~ 10:50	放送委員会	朗読
5	10:50 ~ 11:20	フラダンス部	フラダンス
	11:20 ~ 11:30	休 憩	
6	11:30 ~ 11:40	英語科	英語弁論
7	11:40 ~ 12:05	系列音楽「声楽」	合唱
	12:05 ~ 13:10	昼 休 み	各展示・昼茶(茶室連部茶室)
8	13:25 ~ 13:55	合唱部	合唱
	13:55 ~ 14:05	休 憩	
9	14:05 ~ 14:30	系列演劇	ストリートダンス
10	14:35 ~ 15:00	吹奏楽部	吹奏楽演奏
11	15:00 ~ 15:15	吹奏楽部・合唱部	合同演奏

⑤吹奏楽部

本校には、音楽系の部活動として、「吹奏楽部」「合唱部」「箏曲部」がある。私が顧問をしている「吹奏楽部」は、毎年30名程度の部員が所属し活動をしている。高校で初めて楽器に触れる部員も半数近くいるため「みんなで」をモットーにコンクールでの上位大会への出場を目標と掲げ、日々練習に励んでいる。年間の活動は、吹奏楽連盟主催のコンクールや演奏会に限らず、地元のお祭りや市の行事等における披露する機会をいただいている。これらは、生徒への励みともなり、お声をかけていただけることに本当に感謝している。

また、吹奏楽部の大きな行事の一つに「定期演奏会」がある。今年度の学校統合によりこれまで39回続いた演奏会を「第1回定期演奏会」とし、新たな1ページを開くこととなった。今年度の定期演奏会のテーマは「温故知新」。今までの先輩方の築き上げたいわき総合ならではのスタイルを残し、第2部では総合学科の特色をふんだんに生かしたステージを作り上げることができた。箏曲部・日本伝統音楽研究講座生と吹奏楽部での2部の幕開け、演劇系列生、フラダンス部、美術系列、情報系列、放送委員会とのコラボステージ。これらをすべて生徒たちは手作りの台本から作成し、何度も生徒たち同士で話し合い、練習を積み上げていく。これらは、お客様からの演奏会後のアンケートにおいても大変、好評であった。

【アンケートより抜粋】

- ・いわき総合高校には、他校にない演奏・企画ばかりでいつも楽しみながら演奏会に来ています。来年も楽しみです（40代女性）
- ・今日を迎えるまでにたくさんの方があつたと思いますが、皆さんの努力のおかげで素敵な時間を過ごすことができました（50代女性）
- ・もっと聴いていたかった！参加したくなつた！来年は僕も仲間に入れてください！！（10代男性）

定期演奏会を通し、総合学科の良さやいわき総合高校のすばらしさを発信できることはとても良かったと思う。これらは学校全体の協力があつてのことである。そして、この時間の中には様々な苦労もあるが、演奏会が成功へと導かれた時の生徒たちの感動、そして生徒たちの成長には目を見張るものがある。これらがすべて生徒にとって貴重な時間・経験となり、生徒の素晴らしい未来につながっていると思う。

4. 今後の総合学科の取組と方向性について

他者と力を合わせながら、自己実現のために必要な能力の向上を目指し、総合学科である本校において新しいことにチャレンジしながら、仲間と切磋琢磨し合い、高校生活の充実を目指す生徒を育成できるよう、今後も更に学校全体で一つとなり頑張っていきたいと思っている。

